

宇賀での説明会

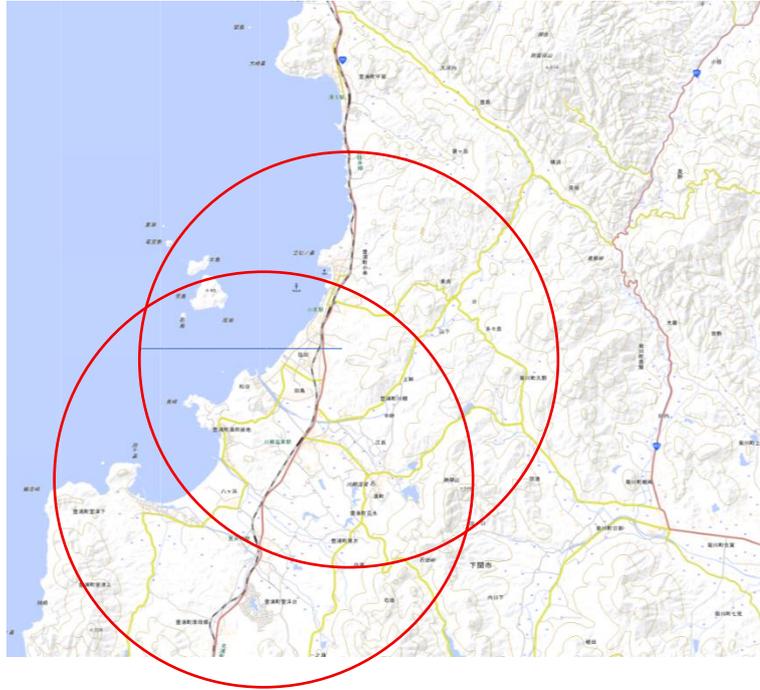
場所 宇賀ふれあいセンター 研修室 出席者 25名程度（含む保護者・小学校校長）

19:00～日程説明

市教委 挨拶

市教委からの計画説明（10分程度）＋三期計画についての説明

※市教委の留意点 6点 印刷物追加 ちなみの地図（西村作成）



- Q. ・三期の時は、小串小と宇賀小が同時に移転することだったが、今回もそういう考え方なのか。
- ・三期の時は、この説明会のすぐあとにPTAへの説明会があったが、今回もそうするのか。する場合は地域の人も入れて開いてほしい。
- ・統廃合の期限があるのかどうか。
- A. ・同時が望ましいと思うが、地域との合意で進めるので、片方が同意して、片方が不同意の場合は同意が取れた方から先行して統合する議論はあり得ると思う。豊北地域の時は段階的に統合していった事例もある。
- ・保護者との協議は、いつ頃どうするというのを各地域でスケジュールを決めているわけではない。適正規模・適正配置、教育環境に関する意見交換は、各校から要望があれば、随時応じているところ。
- ・期限は、四期計画は令和7年から令和12年度までで、今の統合パターンで統合していくべきとは考えている。地元の理解と協力が必要だと考えているので、合意形成がなしに統合を進めた事例は今までもない。あくまでも地域での同意が出てから。
- Q. 宇賀小と小串小が川棚小に統合されるのだが、小串小が不同意の場合、宇賀小は小串小に行くのか、川棚に行くのか。
- A. 3校を川棚小で統合するという計画なので、川棚小で。宇賀小と川棚小だけで統合すべきかという議論になる。

Q. 校区を外してオープンにするというのはどうか。

A. 小規模特認校のことだと思うが、現在は内日小・中学校で導入している。内日は3期計画で小・中一貫校とするところから始め、その際に小規模特認校とした。地域的な条件（下関の真ん中にある）、小中連携できるというところから導入した。募集人員も複式を解消できる程度。概ね10年程度でスタートしたが、まだ定員には届いておらず、1, 2年生は複式を解消できた。若干子どもが増えている状況で、成果と課題を検証していく。そうした状況もあり、市内に複数特認校を設置することは現時点では考えていない。

Q. 双葉保育園は、宇賀の子どもは少ないが、他の校区から通っている。卒園後、宇賀小に入りたいという子ども、親が通わせたいという意見も聞いている。適正規模というと川棚小でというのが、宇賀小で小串小と宇賀小を一緒にする、他から通わせるということが頭にないのか。宇賀が過疎になっているが、（他所から）子どもたちがここに来て、農作業の体験をしたり、海岸で遊んでもらったり、そういうことをできるような環境をいろいろなところにピーアールしていきたい。

A. 現在制度として、校区外通学の承認制度がある。行きたいから、行かせたいからというようなフリーではなく、一定条件のもとに他の学校に通学することを認めている。入学前に友達関係でうまく行かなかった、他の校区から来ているけれど、幼稚園の関係を維持したいから、といった教育的配慮で、しっかり協議しながら承認していく。現時点でも小規模校から大規模校へ、大規模校から小規模校への双方向であり、色々な理由、家庭の事情や子どもの事情であったりが妥当であるとの判断がついたときに承認している。

Q. 豊北小は令和2年に統合しているが、5年たって学校の様子はどうなのか。学校がなくなった地域がどうなっているか。もし宇賀に学校が無くなれば、豊北を前例としてどう対応できるかが考えられると思うので、話を聞かせてほしい。

A. 豊北小は、学級は全学年1学級あり、滝部小にバスで通学している。教育活動の内容として、例えば遠足は、旧7校区にみんなで行くという風に順番に遠足をするという形で、広く地域を知る活動を行っている。地域の方を招いてもいるが、学校からこうした動きを取ることもある。いろいろ工夫しながらこういう活動を実施している。学級の人数は20~30名を維持している。子どもたちの出入りも多く、他市からの転入もあり、子どもたちのつながりも広がっている。いろいろな課題もあるが、解決するために互いに協議等しながら、工夫をしながら進めている現状。

Q. 豊北町にいたが、統廃合の時、地域が沈んだ。わずかでも子どもがいれば（違う？）それを踏まえて。

Q. ・具体的に課題とは。

・統合に向けて授業をするというが、具体的にはどのような授業をするのか。

A. ・課題の一つ一つを全て把握しているわけではないが、もともと遠い所にそれぞれあった学校の子どもたちが通学してくるということで、バス通学になる。時間を合わせて通学するので、遠い所は早く出なければならない。

・それぞれの学校で、色々な活動が実施されている。海側の子は海に出て魚を釣ったりとか。山手の方であれば、山で山菜を採ったり。そういった行事の繋がり。実際に学校の統合が動き出したと

ころでしっかり練っていくことになると思う。ケースバイケースで、地域によって交流の持ち方は変わってくる。そういった動きが出る前にすることは難しいと思う。

- Q. 事前に地域の方と話をする機会があったが、地域がなくなることを心配しておられた。  
現在の保護者だけでなく、(統廃合時期に)対象となる保護者の方の意見を聞いてほしい。
- A. 統合となると合意してから最低でも2年はかかる。一番関心があるのは小学校の低学年や就学前の保護者の方で、それを心配されているのだと思うが、意見を伺う場は大事だと思う。どう設定するかは、学校やPTAと相談して。就学前についてはどういう形で声掛けをするのがよいかはまた相談したい。市全体で、まだいつどこでと決めていないが、相談して、そういう場は是非持ちたい。
- A. 地元の大人たちや、学校運営協議会などの関係者と保護者というのもあるだろうし、保護者だけというところもあるだろうし、その辺りも含めて学校を本当に運営されておられる地元の方も合わせて話を聞きたいという事であれば、我々も出て来るし、保護者、保護者になっていない保育園、幼稚園の方との場も、という事であれば、出てくる。相談しながら。
- Q. 保護者や地域への説明の中で、メリット、デメリットをきちんと説明していない。  
メリットー人数が増えて、人間関係が広がる。  
デメリットー学力が下がる可能性がある。今まで一人対数人で受けていた授業ができなくなり、  
注意力が散漫になる。  
今まで受けられていた手厚い地域の援助が受けられなくなる可能性がある。  
その結果、地域が衰退する可能性がある。  
メリットばかりを説明したら、保護者は統廃合に賛成し、その結果、地域が衰退してしまう。保護者は説明会では地域が衰退することは何も聞いていなかったから。  
豊北は遠足に行くというが、7つ校区があり、遠足は1年に一回か二回かない。その間の地域学習はどうしても滝部に偏る可能性があると思う。市の地域学習の教材も、地域の偏りがあるし、使われている地図が古いなど、地域学習は、ちゃんとできないと思う。  
川棚小は浸水地域であり、交通面でもとても不便といったことを説明していない状況で、保護者に説明をして、統廃合に賛成したとしても、地域も子どものためにと統廃合した挙句に地域がということがあっては絶対いけない。両面を説明してほしい。  
小規模特認校は1校しか認めないとのことだったが、今町内でも32人の(児童・)生徒が他の学校に行っている。数年前の市議会の答弁でも300人だったかのいるという事だった。保育園で他の地域から宇賀小に来たいという時、学校の教育環境がよくないからと宇賀に来たいという場合、教育委員会は拒んではいけないと思うので、特認校があろうがなかろうが。部活等の理由で他の校区に行っている。高いハードルがあるというのはうそだと思うので、説明会では本当のことを話してほしい。
- A. 高いハードルとは言っていない。一定条件のもとできちんと審査をして認めている。
- Q. 人口減少が起きるのは欧米諸国でもずっとわかっている。今までも施策を行っていると思うが、子育て世代を市に呼び込めなかったことが根本的な問題ではないか。
- A. 人口減少、少子化の対策は合併前からある課題。市が食い止めるために施策をしているが、歯止めがかかっていないのが事実。下関市が特に理由があってそうなっているのではなく、東京に集中し、近隣では福岡に集中し、周辺自治体は減り続けている。各自治体で施策をしているが、人口減

少にはあがえない状況。解決は難しい問題だと実感している。最重要施策として住みやすい施策をしているところ。

Q. 結果がこうなっている。専門家を呼んで対応してもらった方がよい。問題が起きた時に学校だけ切り捨てるというのは、どうか。川棚の人口が減ったら、また、どこかと統合するのか。根本的な解決になっていない。

A. 地域に学校が無くなってよいとは思っていない。豊北は小・中が一枚だが、学校が無くなるということはだめだと思っている。豊浦町は少子化のスピードは違うので、統合して、新しい校区を作って、学校規模を確保するという段階。将来少子化が進み、統合が進んだ先に、豊浦小・中学校となったとしても、学校が無くなっていいとは思っていない。適正規模の確保は必要だと思う。

Q. 黒井の説明会で感じたのは、市の教育委員会の中で、心から統合したいと思っている人はいないのではないかということ。

A. 今ある学校がなくなっていいと思っている人はいないと思う。学校には一定の規模が必要。学校は子どもたちが集まって学び、育つところ。教科だけでなく、ふれあい、競い合う中で育つのが学校で、一定の規模は必要。5学級以下は課題の方が大きいと教育委員会は判断しているので、統合という手法をとる。今日の参加者は統合に賛成していないことと思う。ただ、残すかどうかの議論はしていかなければならないので、市教委は統合すべきという案を出している。それを地域、保護者がどう考えるのか。そこを合意しなければ先には進まない。

Q. 宇賀小の子どもは賢いと思う。川棚小の子どもは出会っても挨拶をしない児童もいる。そういうところに宇賀小の子どもを送り込むのか。教育委員会が望む児童像は、宇賀小にあり、川棚小の児童を宇賀小に來させる方が、地域としても子どもたちを育てていくのではないか。児童数が少ないので、授業中にあてられる数も圧倒的に多い。授業参観でも、学習発表会でも、演劇を演じるスキルなども、役も多く、子どもの成長の度合いが比べ物にならない。転入して、びっくりした。大規模な学校に統合するのは残念。小規模校がいいと思う。大規模校から小規模校に連れて来る方が地域にとっていいのではないかと思う。校区外に行くことをもっと自由に考えてほしい。

A. 小規模校について今言われたことは事実だと思う。良さは大きな学校にも小さい学校にもある。良さと悪さは表裏一体。小さい学校は多くの役が回ってくるが、多くの人を見るという機会はないと思う。学校がゼロ人になれば休校になるが、児童が一人でも先生は同じ熱量で授業すると思う。大きければよいというのではなく、一定の規模が必要だと考えの下に少なくなったところに（統廃合を）提案する。メリットの半面、小規模で心配という保護者の意見は直接に頂く。保護者や地域が議論してほしい。（市教委は）いつになったら統合する、という形はとらない。

Q. メリット、デメリットという話があったが、しっかり調べて説明してほしい。

A. 市の場合は事例が少ないので、文部科学省の資料を用いる。文部科学省の手引きの実態調査では、人間関係などは数字では表せないが、統合結果のよい事例は、「よい意味での競い合いが生まれた、向上心が高まった、社会性やコミュニケーション能力が高まった、友人が増えた、男女比の隔たりが少なくなった、多様な意見に触れる機会が増えた、異年齢交流が増えた、集団遊びが成立するようになった、休憩時間や放課後での外遊びが増えた、学校が楽しいと答える子どもが増えた」デメリットは上がってないが、小規模校のメリット（きめ細やかな学習指導、一人一人の活躍の場が多いなど）の裏返しデメリットと言えるのではないか。

- Q. その地域の特性があると思う。今まで多かったところが減ったのか、少人数で少しずつ減ったのかなど。文科省の資料が当てはまるかどうかは疑問がある。地域の特性に応じたメリット、デメリットを説明してほしい。地域を把握した上で。
- Q. 川棚小が浸水地域にあるという事だったが、これから先、そういう危険があるのか、それに対してはこれから対策をとるのか。
- A. 川棚川が近く、浸水地域になっている。どう安全を確保するかが重要。小学校が対策をしないといけない。小串小、宇賀小も土砂災害の警戒区域。市内には他にも（危険地域の）学校もあるが、個々の学校が対策をしていかねばならない。川棚小学校を建て替えることは現実的ではない。災害に対しては対策をしないといけない。
- Q. 宇賀小から夢が丘中に進学して、学級懇談で話したり、聞いた話で、周りがうるさくて授業にならない状況だという。ワークをしても、話しかけてくる。小学校からの積み重ねでそうなのではないか。デメリットの方が大きいのではないか。大きい学校にいったらちゃんと授業をうけられるのか。そちらに引き込まれる可能性もある。授業についていけない可能性もある。統合して通わせるようになる保護者の意見をもっとしっかり聞いてもらって。小規模校のメリットを優先したいという意見も大事にしてほしい。児童数の数が令和12年になると非常に少なくなって、デメリットが大きくなり、保護者は統合しないといけないという意見になると思う。校区外の児童を受け入れる体制とかも検討していただきたい。
- Q. 室津でもいろいろな話が出た。今日配付されている意見記入用紙は、総合支所でもファックスやメールで7月31日まで意見が出せる。豊浦町で毎年やっている「私の主張」で、それぞれの小学校からいろいろな意見がでており、意見を発表する大切な場だと思っている。統廃合されて2校だけになると、意見が出にくくなるのではないか。
- Q. 川棚地区の説明会がないが、統廃合を川棚の方はどのように考えているのか。地域には川棚小がどんな学校か、全く情報がない。指導の難しい児童もおり、大変と聞く。そういう中に宇賀の子どもを入れるのは、疑問がある。年数が変われば人も変わると思うが。川棚小の情報がある程度まとめてもらって、宇賀や小串に情報提供をしてもらったら、わかった上で賛成・反対の意見がでるのではないか。
- A. 黒井の説明会で、川棚小の保護者から説明会がないことについての質問があった。いつやるかは決めていないが、説明する機会は必要だと思うし、学校の状況の情報も説明できるものがあれば、地域で話す際の資料として出せると思う。今日は賛成か反対かを聞く場ではなく、案の説明のみ。今後の話し合いの中で情報提供も。
- Q. 統廃合のメリット、デメリットの中で、下関のデータがない。文科省の資料はインターネットでも調べられる。下関市の小規模校のメリット、デメリットを集めてもらえたら。
- Q. 保護者だ。こんなに地域力がある地域はほかにはない。豊北町での遠足の際、地域の方は、「年に一

回の楽しみだ」と言って子どもを迎える。統合はいい面もあるが、地域が廃れていっている現状に（目を背けて？）いいのかと感じる。子どもたちのデメリットは不透明だったが、スクールバスで通う子が、早く起きてバスで寝てしまい、1時間目に目が覚めていないし、下校の際に寝てしまうことで、夜寝るのが遅くなり、朝が起きられず、ご飯が食べられずに来る、という現状もある。宇賀だったら、毎朝地域の方が必ず見守って登下校している。生活のリズムの基本が合併することによって土台が壊されてしまう、早や寝、早起き、朝ごはんを崩してしまうのは残念だし、不安。豊浦町にも不登校児童はたくさんいると思うが、教育的配慮で隣の学校に転校できてよかったと言っているのに、統合することによって（他に選択できる学校が）減っていく。自分の子どもが統合して不登校にならないという保証はないので、そういうことも考えると不安。宇賀小も内日小のような小規模特認校になるといい。宇賀小の今年の6年生が、児童数を増やすために「私の主張」をし、「ホームページを作る」、「土地を活用する」「空き家を活用する」ということを提案し、地域も背中を推し、ホームページを作成しようとし、空き家の活用が出来ないかを保護者で話し合ったりもしている。宇賀地域もスタートに立った所なので、見守ってほしい。先生方も意欲的に地域に開けた学校づくりとして、「椿学級」というものを考えている。最新の、全国に模範となるようないろいろな取り組みを一体になってしていると思うので、残していただきたい。

- Q. ・パブリックコメントの締め切りは7月31日厳守でなくてよいのか。  
・議事録がいつ頃できるか。できるのが遅ければ、簡単な議事録をまちづくりで作成している。  
・黒井で「まだスタートラインにも立っていない」と言っていたが、それでよいのか。  
・子どもの意見はちゃんと聞いたのか。  
・地域、保護者等の話し合いの結果、書面をもって同意を伝えてからのスタートで間違いないか。
- A. ・パブリックコメントの締め切りは、集計する上で間に合うものは、柔軟に考える。  
・何合目か、という話は、案は作成しても、実施に向けては、合意を確かめてから準備に入るので、統合に向けての話し合いはスタートしていない。  
・子どもの意見は先週までに学校を通じてアンケートを実施した。  
・議事録は内容を精査して作成するが、いつかは決まっていない。

Q. パブリックコメントや子どもの意見は他の人も見る事が出来るのか。

A. 計画についての市民の考えを出していただく。こういう意見に対して、市教委はこういう考えというのを出す。子どもの意見は、統合がいいかどうかではなく、一クラスの人数をどう思うかというような内容。取りまとめて、ホームページで公表する。

Q. 全部の意見が出るのか。

A. パブリックコメントに上がった内容は、原則的には来た意見に対しての答えを出す。同種の意見はまとめることもありうる。